



ちばりは ニュース

千葉県千葉リハビリテーションセンターの理念と基本方針

理 念

「誰もが街で暮らすために」

Everybody will be in own town

—私たちは障害児・者の自立と社会参加に向けて良質な医療と福祉を提供します—

基本方針

- 利用者の意思と個性を尊重し、専門職の協働による包括的リハビリテーションを実践します。
- 日々の研鑽により自らの人間性と専門性の向上を図り、安全で質の高いサービスを約束します。
- 地域の各機関との連携を図り支援し、また研究・開発や専門職育成に努めます。

2020年2月 発行 第39号

千葉県千葉リハビリテーションセンター 広報誌



〒266-0005

千葉市緑区誉田町1-45-2

TEL 043-291-1831 FAX 043-291-1857

ホームページアドレス

<http://www.chiba-reha.jp/>

国内先進施設視察研修

今年度センターでは、初の試みとなる国内先進施設視察研修を実施しました。国内の先進施設を視察することにより、その成果をセンターの業務改善及び職員の資質向上に活かすことを目的とし、12グループの派遣を決定いたしました。今回はその中から4グループについて紹介します。

名古屋市総合リハビリテーションセンター・介助犬総合訓練センター（シンシアの丘）

視察目的

センターの建替えに向けて提供サービスの見直しが必要になります。今回の視察では自立生活援助事業の導入し、機能訓練事業を一本化している施設に伺い、日中サービスにおいて他職種が協力して行っているプログラムなどを建替えの参考にするため。また、地域移行支援を実施している施設として、介助犬を相談した実績がないため、介助犬訓練施設において実際に学び相談に繋げるため。

研修を終えて

名古屋リハは、就労移行部門の作業メニューが豊富であり、過去の利用者のために個別対応として取り入れた作業がメニューとして蓄積されており指導する職員の能力の高さを感じました。また、生活支援員が調理訓練や外出訓練を行っており、他職種の様々な目線により利用者の現状を評価できていたので、当センターでも見習いたいと思いました。シンシアの丘では、実際のユーザーの方から話を伺うことができました。介助犬は様々な動作の援助のほかにも心理的にプラスにはたらくことも多いと知り介助犬の可能性の大きさを感じるとともに、この事業の大切さ、シンシアの丘のような介助犬訓練施設の運営の難しさも再度感じました。



高柳専務理事と介助犬ユーザーの方との一枚



名古屋市総合リハビリテーションセンター

かすみケアグループ（霞ヶ関南病院・霞ヶ関在宅リハビリテーションセンター・特別養護老人ホーム真寿園・Hauskaaかすみ野）

視察目的

霞ヶ関南病院は埼玉県地域リハビリテーション・ケア・サポートセンターとして、埼玉県における地域リハビリテーション（以下、地域リハ）の実質的な中心施設として地域包括ケアシステムの構築を支援している。また、回復期リハビリテーション病院としても全国的に活躍をしている施設である。当該施設を見学することにより、院内施設の工夫や県の地域リハ事業についての意見交換を行う。

研修を終えて

地域に貢献することを職員一人一人が意識しており、地域とともに育ってきた施設という印象で、ニーズに合わせて変革してきているのがよくわかりました。地域づくりを前提に展開される地域リハは非常に感銘を受け、病院や施設を地域化する必要性を再認識しました。当センターがどの地域にどのように関わるべきかについて、今後整理していかなければならないと感じました。



霞ヶ関在宅リハビリテーションセンター

2面につづく

沖縄南部療育医療センター・沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

視察目的

千葉県の脳性麻痺診療の中心を担うセンターとして、他施設とのカンファレンスが定期的に行われ、選択的後根離断術（SDR）やITB治療も盛んに行われている施設を見学し、より良い多職種連携に活かしていくため。



研修を終えて

沖縄南部療育医療センター

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

関東圏にてSDRを実施している病院は3箇所程度しかなく、千葉県に至っては1箇所もありません。現状千葉県で痙縮治療を選択する場合、選択肢はBTXとITBに限られています。ITBも沖縄県ほど積極的ではないので、当センターでは、ほぼBTXのみとなっています。また、今後センターの利用者に痙縮治療の選択肢を増やして行けるのか検討すべきであり、セラピストからのBTXの提案はあるが、ITBやSDRの適応になりそうなケースの提案はほとんどないのが現状です。まずできることとして院内において痙縮治療に関する多職種カンファなどが考えられ、リハ職は医師へ痙性治療の提案ができるように、痙縮に対する評価を行えるようになる必要があると思いました。

※SDR：選択的脊髄後根離断術 ※BTX：ボツリヌス療法 ※ITB：バクロフェン髄注療法

仁保病院

視察目的

将来的な労働人口減少に伴い調理従事者の不足が予想されるため、現在の調理方法を見直しているところである。将来的にはニュークックチル方式を採用したいと考えており、実際に採用している施設を視察し参考とするため。

ニュークックチル方式とは、計画的に調理を行い数日分チルド庫でストックし、盛り付け後再加熱カートで最終加熱を行うものである。この方式を採用することで早朝勤務の軽減及び食中毒予防に大きな効果がある。

研修を終えて

ニュークックチルを導入することにより、労働人口を確保するのに絶対条件である早朝勤務の緩和や、最終勤務時間を早めることも可能であると考えられ、衛生面においても従来のやり方よりも早く提供できるため食中毒予防に効果があり、料理に触れずに提供できるため二次汚染のリスクも軽減が期待されます。他にも温かいまま利用者さんに提供できるため残菜が大幅に減少したというデータもあり、このようなことからニュークックチル方式に変えていく必要があると再認識させられました。



上田広美さんが「文化の日 千葉県功労者表彰」を受賞されました

この度、令和元年度「文化の日 千葉県功労者表彰」において、当センター 副看護部長上田広美さんが、長年看護師として障害児者の看護に尽力し、看護全体の質の保証に寄与している等の功績が認められ、11月3日に千葉県議会議場で「健康福祉功労」として表彰されました。

一受賞された感想をお願いします。

令和元年の記念すべき年にこのような過分なる賞を頂戴し、驚きつつも光栄に思っています。看護を大事に多くの千葉リハの皆さまに支えられ、今まで働き続けられたことに深く感謝申し上げます。

一今までで一番嬉しかったことは何ですか？

チームで協力して利用者さんが望む退院生活への支援ができた時や退院後に元気なお姿を見せてくれ、「入院して教わったことが役になっているよ」と声をかけてくれた時は本当に嬉しく、看護師冥利に尽きますね。

一これからの目標は何ですか？

多職種の皆さんと共に利用者さんもチームの一員として、良いケアや支援につながるように取り組んでいきたいですね。そして、スタッフがやりがいやプライドをもって働ける職場づくりに取り組んでいきたいです。



現在の配属先である看護局での一枚、中央が上田さん

REHUG研修会

当センターが事務局を務める千葉JRATでは、災害リハ支援時の本部運営を担うロジスティクスの育成を目的に、1月12日当センター大ホールにて熊本県理学療法士協会の佐藤亮氏を講師に招き、REHUG研修会を行い、県内各地から35名に参加いただきました。REHUGは熊本地震での災害リハ支援をモデルとして開発された本部運営シミュレーションゲームです。参加者は支援チーム派遣や情報収集等の様々なイベントを疑似体験することで、本部運営の手法や災害時における慌ただしい雰囲気を経験しました。本研修会により参加者同士の意識の共通化や交流が図られ、今後の千葉県の災害リハ支援体制を担う人材育成のきっかけとなりました。また本研修をサポートするため、前日に26名のREHUGファシリテーターが養成され、当日は23名がサポートしました。

※REHUG
Rehabilitation Honbu
Unei Gameの略
(リハグ) 大規模災害
リハビリテーション支援
チーム本部運営ゲーム



講師の佐藤氏



班員で協力して災害時に起こるイベントをクリアしていく



本部の対応を時系列に記録するクロノロジー

千葉県こどものリハビリ多職種勉強会

2019年10月19日(土)に、当センター大ホールで、『千葉県こどものリハビリ多職種勉強会』を開催しました。

共催である日本脳性麻痺・発達医学会からボバース記念病院院長、荒井洋先生を招き、小児リハの包括的治療に関わる講演をしていただきました。また、当センター外来リハビリに通う利用者にもご協力いただき、実際のリハビリ場面の見学をし、リハビリの方針や課題を検討するグループワークも実施し、意見交換も行いました。当日は県内全域から、病院、療育施設、訪問リハのPT・OTを中心に、医師・看護師らの計116名が参加し、それぞれの学びの機会となったと同時に、県内で働く者同士の横のつながりを深める交流も行えました。

こうした多職種参加での比較的大きな規模での勉強会はこれまでなく、県内の小児リハの質を高め、子どもたちと家族の笑顔が増える力になればと、次年度以降の開催も検討しております。



職員研究発表会

当センターでは、毎年、センター職員が、所属部署や関心のある業務に関する研究や事例を他部署の職員に伝える場として、職員研究発表会を開催しています。

14回目の開催となる本発表会は、令和元年11月2日（土）に開催され、15題の口述発表と6題のポスター発表がありました。

当日は、多職種で取り組んだ患者さんへの支援の事例、様々なリハビリテーションの実践報告、感染対策、プロジェクトの紹介など、医療分野と福祉分野が共存し、多くの職種で構成されている当センター職員の特徴が活かされた口述発表がなされ、活発な質疑応答が行われました。聴講した職員からは、自部署のみならず、他部署の取り組みを知ることができた、チーム医療の大切さを実感した、発表の方法を学んだという感想を得ています。

15題の口述発表には、最優秀賞と聴講した職員の投票から決定される人気賞が設けられ、今年度は、高次脳機能障害支援センターの三浦さんが最優秀賞に、総合相談部の佐藤さんが人気賞に選ばれました。



発表会の様子



ポスター発表

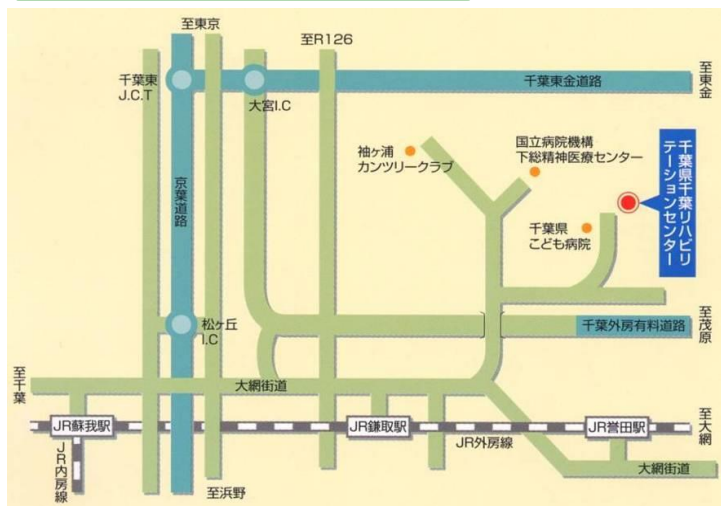


最優秀賞の三浦さん



人気賞の佐藤さん

センター案内図



チラシ

車のご利用

- 千葉東金道路 大宮インターから約10分
- 京葉道路 松ヶ丘インターから約25分

電車・路線バスのご利用

- JR外房線鎌取駅北口から千葉中央バスのりば2「千葉リハビリセンター」行 約9分
- JR千葉駅東口から千葉中央バスのりば2「千葉リハビリセンター」行 約40分（土曜・休日のみ）

無料送迎バスのご案内

平成26年8月1日改定

（センター⇄JR鎌取駅 循環運行）

JR鎌取駅北口発 千葉リハビリテーションセンター行き 千葉リハビリテーションセンター発 JR鎌取駅北口行き

時	平日	土曜日
8	10 30 50	10 30 50
9	10 30 50	10 30
10	10 30 50	20 40
11	10 30 50	00 20 40
12	10 30 50	40
13	10 30 50	
14	10 30 50	
15	10 30 50	
16	10 30 50	
17	10 40	

時	平日	土曜日
8	03 23 43	03 23 43
9	03 23 43	03 23
10	03 23 43	13 33 53
11	03 23 43	13 33
12	03 23 43	33
13	03 23 43	
14	03 23 43	
15	03 23 43	
16	03 23 43	
17	03 33	

- ①センター送迎バス発着場所について
鎌取駅発・・・鎌取駅北口ロータリー付近
（専用のバス停はございません）
センター発・・・センター正面玄関前
- ②車椅子ご利用の乗車定員について
中型バス（黄色）・・・2名
マイクロバス（水色）・・・3名
- ③日曜・休日は運休となります。
- ④道路混雑等により遅延する場合があります。